

2019年度版

# 全国の山村留学実態調査報告書



NPO法人 全国山村留学協会

本調査でいう「山村留学」とは、山村留学だけでなく、その他の義務教育期間中の日本国内における留学制度全般を指します。これらの総称を、表記上、山村留学とします。  
なお、同一行政区内での学区外通学はこれに含みません。

#### 【本調査の概要】

本調査は主に山村留学実施地域を対象としており、昭和51年度より継続して実施しているものです。尚、現在の対象となる地域は、平成12年度文部科学省委嘱事業「山村留学と国内ホームステイ等の実態についての調査研究」を元に、毎年更新して決定しています。  
2019(令和元)年度のアンケート配布地域数及び有効回答数は以下の通りです。

小学校・・・配布数106校(有効回答数95校、無回答等11校)  
中学校・・・配布数58校(有効回答数49校、無回答等9校)

※無回答等は本調査内容には含まれていません。

#### 【都道府県の地方区分について】

本調査では、一般的な八地方区分を採用しています。

北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
中部	新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県
近畿	三重県、滋賀県、奈良県、和歌山県、京都府、大阪府、兵庫県
中国	岡山県、広島県、鳥取県、島根県、山口県
四国	香川県、徳島県、愛媛県、高知県
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

#### 【本文中の表記について】

本文中では、山村留学の居住形態別に以下の分類及び表記を行っています。

ホームステイ方式	年間を通して主にホームステイ宅で生活をするもの
寮方式	年間を通して主に寮で生活をするもの
併用方式	年間を通して、ホームステイ及び寮での生活を同数程度行うもの
家族方式	留学生本人だけでなく家族等と移住するもの

# 山村留学データバンク



2019年度の参加者は前年度より58人増(小学生54人、中学生4人)の628人となりました。特に家族方式が62人増となっており、他の方式の減少があったものの、全体としては増加に繋がっています。これは今まで児童生徒のみを預かる留学方式をとっていた地域が、新たに家族方式の導入を決めたことも影響していると考えられ、山村留学を単に青少年に対する教育活動と捉えるだけでなく、定住事業等との連携を図りながら、地域全体のポトムアップを図る事業と位置付けていることが推察されます。

また、全体としても実施校数が6校増加し、新たに留学制度を導入した(または本調査の対象となった)箇所が増加したことも、全体の参加者増に繋がっていると考えられます。

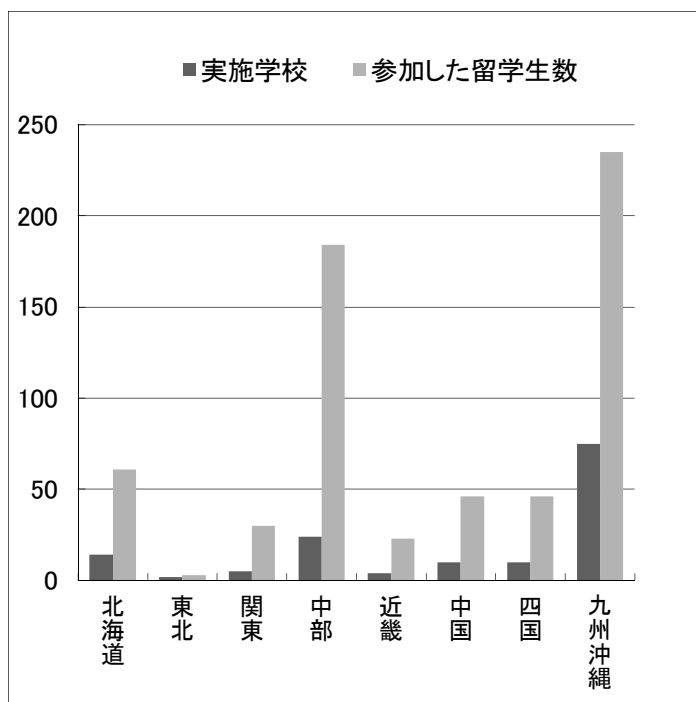
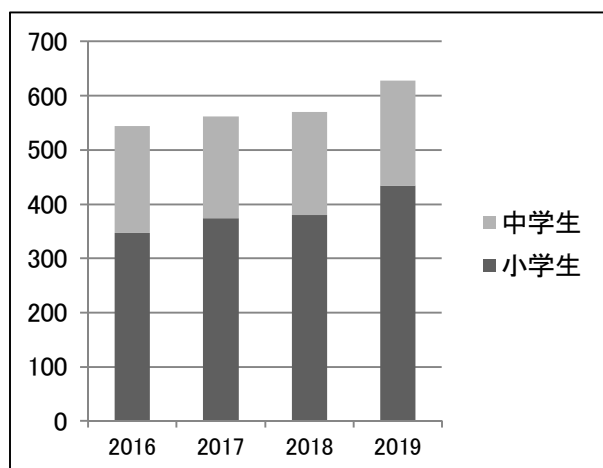
- 実施都道府県 22道府県 (留学生受け入れ20、受け入れなし2)
- 実施自治体 67市町村 (留学生受け入れ52、受け入れなし15)
- 小学校 95校 (留学生受け入れ76、受け入れなし19)
- 中学校 49校 (留学生受け入れ37、受け入れなし12)
- 小学生参加者 434人 (新規参加者268人、継続参加者166人)
- 中学生参加者 194人 (新規参加者82人、継続参加者112人)
- 参加者累計(1976年度～2019年度延べ人数) 21,338人
- 山村留学体験者数(新規参加者のみの累計) 12,623人

## ▽地域別の山村留学実施校と受け入れ人数

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州沖縄	全体
実施学校	14	2	5	24	4	10	10	75	144
受け入れた学校	10	2	3	20	4	8	6	60	113
受け入れなかった学校	4	0	2	4	0	2	4	15	31
参加した留学生数	61	3	30	184	23	46	46	235	628
一校平均の受け入れ数	6.1	1.5	10.0	9.2	5.8	5.8	7.7	3.9	5.6

## ▽小中学生別参加者数の推移(2016～2019)

	2016	2017	2018	2019
小学生	347	374	380	434
中学生	197	188	190	194
合計	544	562	570	628



# 山村留学実施市町村及び学校名 NO.1

Aは親元を離れた山村留学生数(ホームステイ、寮、併用) : Bは家族で転居した山村留学生数(家族) : 無記入は受け入れなし

単位(人)

北海道		A	B
雄武町	共栄小		2
鹿追町	瓜幕小	2	7
	瓜幕中	8	
新得町	富村牛小		6
	富村牛中		3
西興部村	上興部小		
東神楽町	志比内小		15
美深町	仁宇布小		6
	仁宇布中	5	1
平取町	振内中		
芽室町	上美生小		1
	上美生中	4	1
中頓別町	中頓別小		
	中頓別中		
合 計		19	42

宮城県		A	B
丸森町	筆甫小		2
	耕野小	1	
合 計		1	2

群馬県		A	B
上野村	上野小	6	
	上野中		
高崎市	倉渚小	14	
	倉渚中	10	
合 計		30	0

埼玉県		A	B
越生町	梅園小		
合 計		0	0

新潟県		A	B
粟島浦村	粟島浦小	5	
	粟島浦中	9	
合 計		14	0

山梨県		A	B
早川町	早川南小		6
	早川北小		11
	早川中		
小菅村	小菅小		19
	小菅中		4
合 計		0	40

長野県		A	B
阿智村	浪合小	13	7
	阿智中	2	
売木村	売木小	7	
	売木中	2	
大鹿村	大鹿小		2
	大鹿中		
大町市	八坂小	13	
	美麻小	4	
	八坂中	7	
北相木村	美麻中	6	
	北相木小	19	13
長野市	大岡小	7	
	大岡中	8	
泰阜村	泰阜小	11	
	泰阜中	9	
合 計		108	22

岐阜県		A	B
七宗町	神渚小		
	神渚中		
合 計		0	0

京都府		A	B
南丹市	美山小	6	
合 計		6	0

兵庫県		A	B
神河町	越知谷小	11	
合 計		11	0

和歌山県		A	B
紀の川市	鞆渚小		1
	鞆渚中	3	2
合 計		3	3

島根県		A	B
大田市	北三瓶小	4	
	北三瓶中	7	
海士町	海士小		3
	福井小		3
知夫村	海士中		
	知夫小	7	
西ノ島町	知夫中		
	西ノ島小		2
	西ノ島中		2
合 計		18	10

山口県		A	B
岩国市	本郷小	15	
	本郷中	3	
合 計		18	0

徳島県		A	B
那賀町	木頭小	2	
合 計		2	0

愛媛県		A	B
砥部町	広田小	16	
合 計		16	0

高知県		A	B
いの町	本川中	13	
	魚梁瀬小		
馬路村	魚梁瀬中		
	大川小	4	
大川村	大川中	11	
	室戸市		
	中川内小		
	中川内中		
合 計		28	0

## 山村留学実施市町村及び学校名 NO.2

Aは親元を離れた山村留学生数(ホームステイ、寮、併用):Bは家族で転居した山村留学生数(家族):無記入は受け入れなし

単位(人)

福岡県		A	B
宗像市	地島小	5	
八女市	星野小	9	
合計		14	0

佐賀県		A	B
佐賀市	北山東部小	2	
合計		2	0

長崎県		A	B
五島市	久賀小	5	1
	久賀中	6	1
	奈留小	1	
	奈留中	1	
	北魚目小	3	
	魚目中	1	
合計		17	2

宮崎県		A	B
西都市	銀上小	5	
	銀鏡中	11	
合計		16	0

鹿児島県		A	B
阿久根市	田代小		
	大川小		
天城町	西阿木名小三京分校		3
伊佐市	南永小		
出水市	上場小	1	
霧島市	永水小		2
薩摩川内市	鹿島小	8	1
瀬戸内町	与路小	3	
	与路中	1	
	薩川小		5
	西阿室小		1
	伊子茂小		4
	伊子茂中		7
	諸鈍小		5
	嘉鉄小		3
	篠川小		2
	秋徳中		3
徳之島町	手々小	2	
	手々中		
十島村	諏訪之瀬島小	2	
	宝島小	3	
	小宝島小	1	
	悪石島小		
	口之島小	1	
	平島小	3	
	諏訪之瀬島中	3	
	宝島中	3	
	小宝島中	3	
	悪石島中		
	口之島中	4	
	平島中	2	
中種子町	岩岡小	6	
西之表市	上西小	2	
	国上小		2
	伊関小		
	安納小		
	安城小	1	
	現和小	2	
	古田小		
	住吉小		

鹿児島県		A	B
三島村	竹島小	1	
	片泊小		
	竹島中	5	
南種子町	片泊中	3	
	荃南小	8	
	西野小	4	4
	大川小	6	2
屋久島町	島間小	6	3
	平山小	4	2
	花峰小	4	4
	長谷小	2	2
	永田小		1
	金岳小	4	
	栗生小		
八幡小	3	2	
与論町	一湊小		5
	金岳中	1	
	与論中		
始良市	漆小		
合計		102	63

沖縄県		A	B
国頭村	安田小		6
渡嘉敷村	渡嘉敷小		
	渡嘉敷中	3	
南城市	久高小	1	
	久高中	9	
合計		13	6

## 居住形態別データ



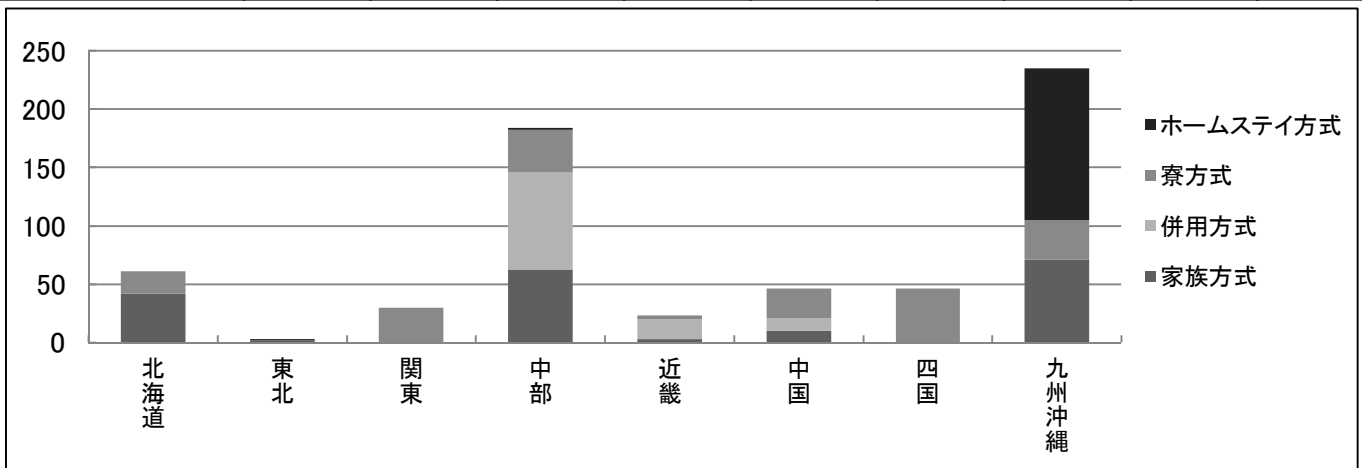
居住形態別の参加者数をみると、家族方式が62人増、併用方式が14人増となっており、逆にホームステイ方式は10人減、寮方式は8人減となりました。

ここ数年、地域世帯の高齢化が進む中で、ホームステイの受入家庭を確保することが難しくなっており、年度による増減はあるものの、ホームステイ方式は減少傾向にあります。ただ一方で、指導員の配置や施設設備等の必要がないため、家族方式と同様に事業をスタートするにあたって導入しやすい面があることも否めません。

いずれにしろ、これからの山村留学は体験の質が重視されており、単に子どもを預かるというスタンスでは留学生確保が難しく、より内容のしっかりした留学地に子どもが集まる傾向があります。

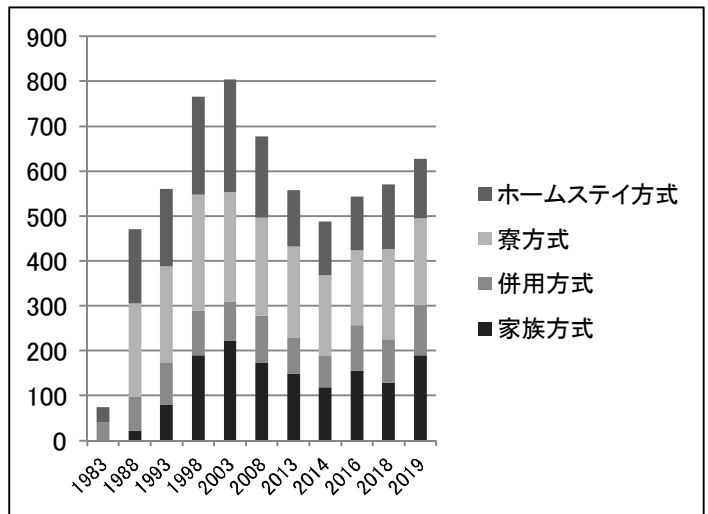
### ▽居住形態別の地域別参加者数

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州沖縄	全体
ホームステイ方式	0	1	0	2	0	0	0	130	133
寮方式	19	0	30	36	3	25	46	34	193
併用方式	0	0	0	84	17	11	0	0	112
家族方式	42	2	0	62	3	10	0	71	190
合計	61	3	30	184	23	46	46	235	628



### ▽居住形態別参加者数の推移(1983~2019)

	ホームステイ方式	寮方式	併用方式	家族方式
1983	35	0	40	0
1988	166	208	75	22
1993	172	215	93	80
1998	219	258	99	190
2003	251	243	87	223
2008	180	219	105	173
2013	125	202	81	149
2014	120	179	70	119
2016	121	166	102	155
2018	143	201	98	128
2019	133	193	112	190



ホームステイ方式は約98%が九州沖縄地区に集中しており、併用方式は約75%が中部地区、家族方式は北海道地区、中部地区、九州沖縄地区だけで約92%となっている一方で、寮方式は東北地区を除く全国に分散しています。また、東北地区は留学生が最も少なく、中部地区には様々な留学方式の実施地域が混在しています。

## 学年別・男女別データ



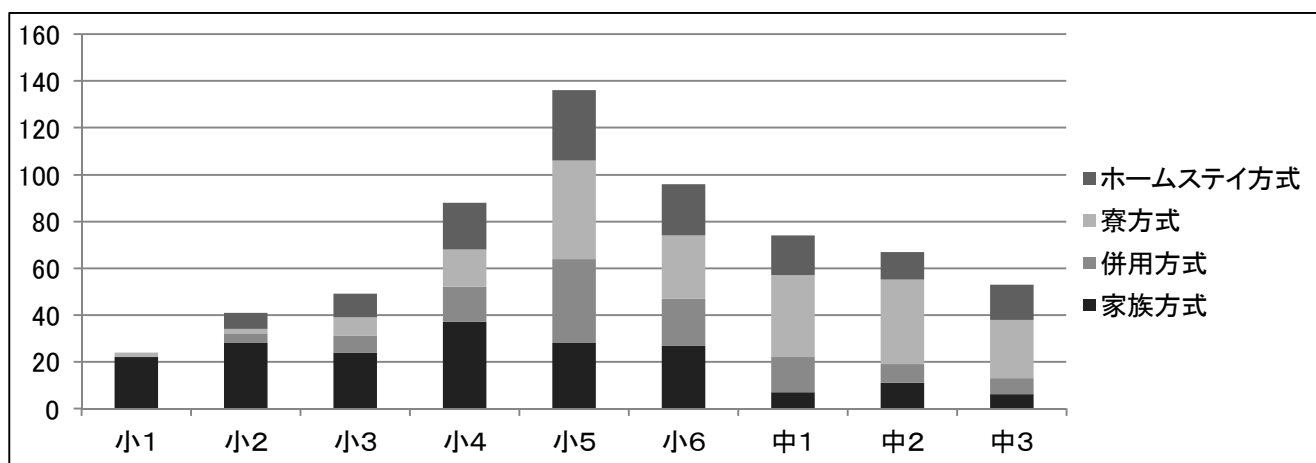
学年別では、小学生が約69%(434人)、中学生が約31%(194人)となっており、最も人数が多い学年は小5の136人(約22%)となっています。これは例年の傾向であり、受験等もない学年のため、山村留学に出しやすいということかもしれません。

また、親元を離れる山村留学の場合、ある程度での生活面での自立が求められ、小3以上を受け入れ対象にしている地域が多いため、小3から徐々に増加しています。

一方で家族方式の場合は、家族同伴であることから小3以下の参加者が約39%(74人)となっており、中学生は約13%(24人)と少なくなっています。

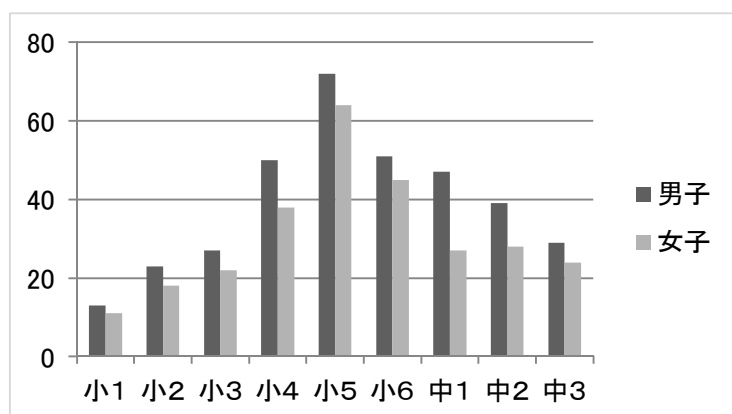
### ▽居住形態別の学年別参加者数

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
ホームステイ方式	0	7	10	20	30	22	17	12	15	133
寮方式	2	2	8	16	42	27	35	36	25	193
併用方式	0	4	7	15	36	20	15	8	7	112
家族方式	22	28	24	37	28	27	7	11	6	190
合計	24	41	49	88	136	96	74	67	53	628



### ▽学年別の男女別参加者数

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
男子	13	23	27	50	72	51	47	39	29	351
女子	11	18	22	38	64	45	27	28	24	277
合計	24	41	49	88	136	96	74	67	53	628



全体では男子が351人(約56%)、女子が277人(約44%)で、前年度よりも男子は22人増、女子は36人増となりました。

男女比は「男子:女子=6:4」がここ数年の傾向でしたが、徐々に女子比率が高まっています。

このため、地域、年度によって多少の違いはありますが、山村留学に参加するにあたっては、性差はあまり影響していないと考えられます。

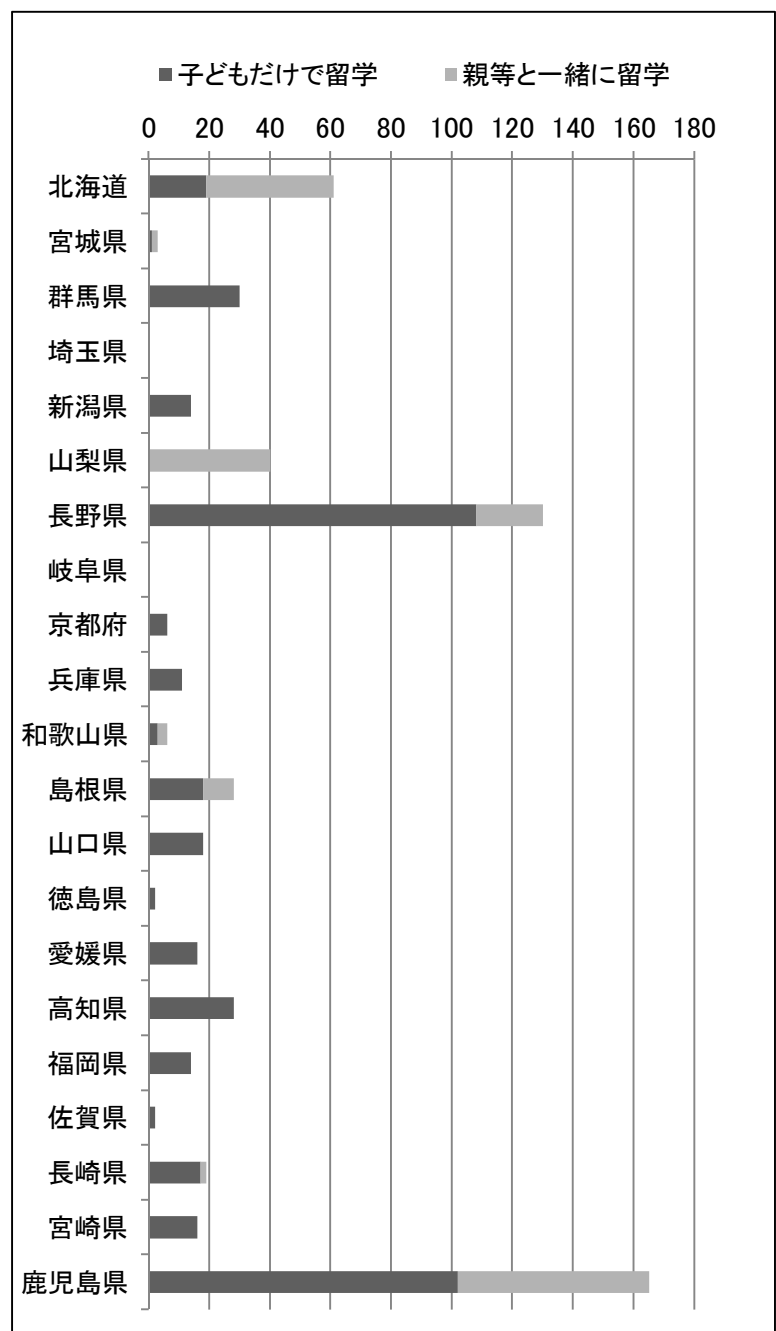
## 都道府県別の山村留学受け入れ人数

- 2019年度の山村留学参加者数は628人で、うち子どもだけで留学した参加者数は438人(約70%)、親等と一緒に留学した参加者数は190人(約30%)です。
- 受け入れ人数が多い都道府県は、鹿児島県(165人、35人増)、長野県(130人、6人増)、北海道(61人、2人減)、山梨県(40人、36人増)です。
- 子どもだけで留学した参加者数が多いのは、長野県(108人、1人増)、鹿児島県(102人、2人増)のほか、群馬県や高知県、北海道、島根県、山口県などが多くなっています。
- 親等と一緒に留学した参加者数が多いのは、鹿児島県(63人、33人増)、北海道(42人、4人減)、山梨県(40人、36人増)などとなっています。

※人数比較は前年度と比べた数字

### ▽都道府県別の留学生受け入れ人数

	子どもだけで留学	親等と一緒に留学	合計
北海道	19	42	61
宮城県	1	2	3
群馬県	30	0	30
埼玉県	0	0	0
新潟県	14	0	14
山梨県	0	40	40
長野県	108	22	130
岐阜県	0	0	0
京都府	6	0	6
兵庫県	11	0	11
和歌山県	3	3	6
島根県	18	10	28
山口県	18	0	18
徳島県	2	0	2
愛媛県	16	0	16
高知県	28	0	28
福岡県	14	0	14
佐賀県	2	0	2
長崎県	17	2	19
宮崎県	16	0	16
鹿児島県	102	63	165
沖縄県	13	6	19
合計	438	190	628





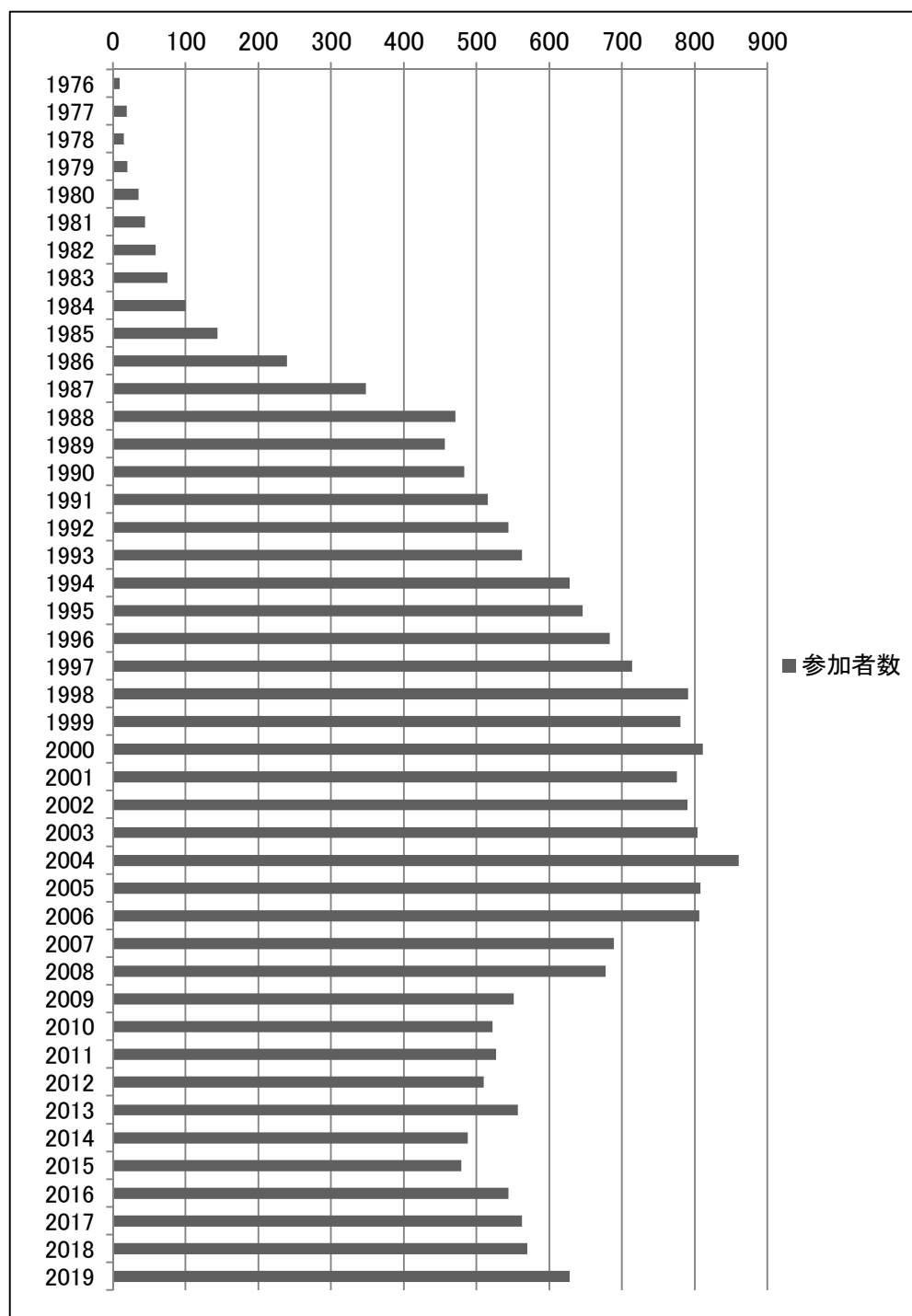
## 44年間の山村留学参加者数の推移

1976年度(昭和51)に長野県八坂村(現大町市)で日本初の山村留学が実施されて以後、44年間の参加者数の推移です。一時は900人に迫った参加者数も、自治体合併やホームステイ先の高齢化、地元児童生徒数の減少、学校統廃合等により減少に転じました。しかしながら、ここ数年は増加傾向に転じ、2019年度は628人と、1994年度の水準まで戻りつつあります。

ピーク時に比べて受け入れ校は減少してはいますが、新たに開設されたり、実績ある地域に安定的に留學生が集まっていること、そして家族方式の導入による定住促進等が増加傾向に繋がったと考えられます。

### ▽山村留学参加者数の推移

年度	参加者数
1976	9
1977	19
1978	15
1979	20
1980	35
1981	44
1982	59
1983	75
1984	100
1985	144
1986	239
1987	348
1988	471
1989	456
1990	483
1991	515
1992	544
1993	562
1994	628
1995	646
1996	683
1997	714
1998	791
1999	780
2000	811
2001	775
2002	790
2003	804
2004	860
2005	808
2006	806
2007	689
2008	677
2009	551
2010	522
2011	527
2012	510
2013	557
2014	488
2015	479
2016	544
2017	562
2018	570
2019	628



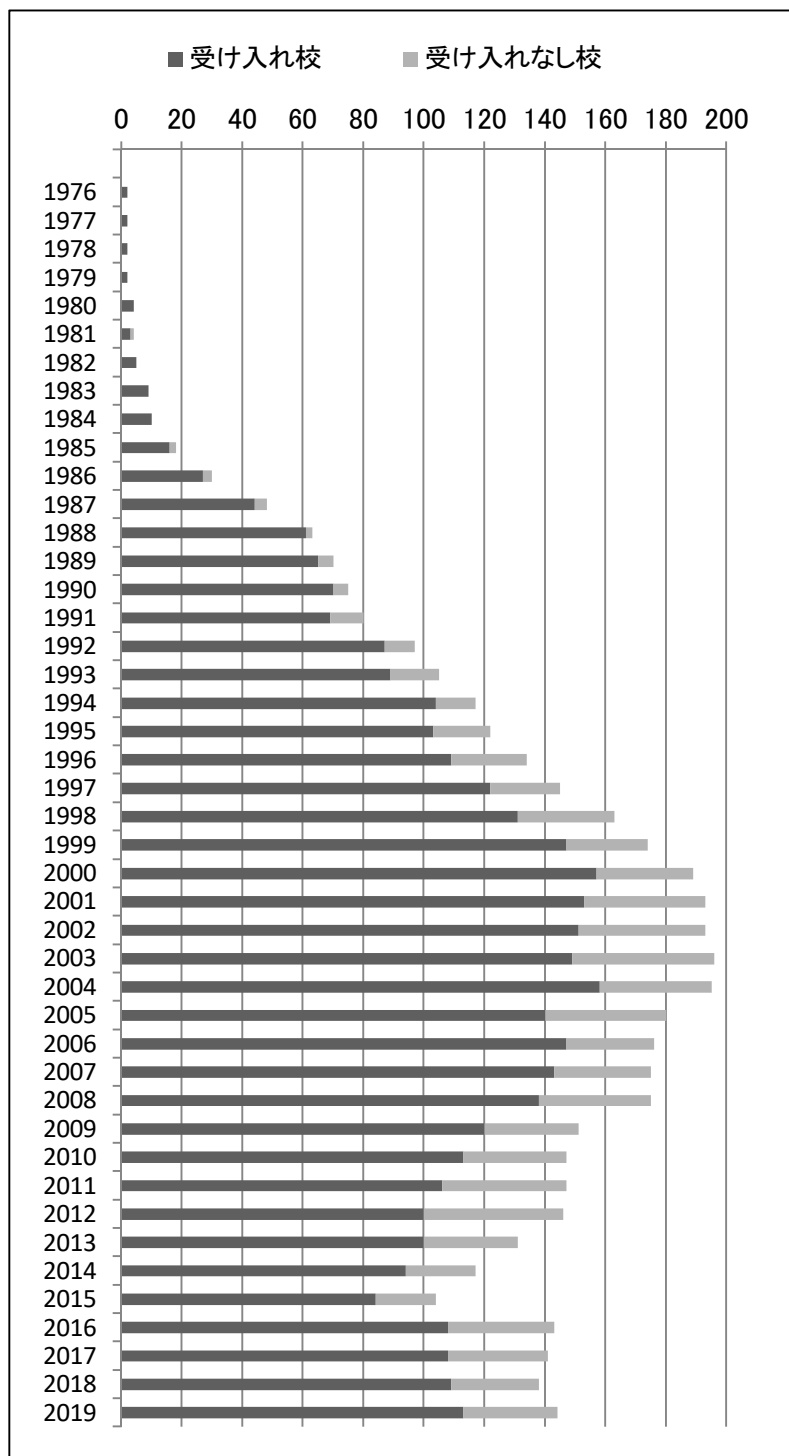
## 44年間の山村留学実施校の推移

山村留学実施校は1985年度頃から増加し、2003年度にピークをむかえましたが、同時に、開設しても留学生が確保できない受け入れなし校も一定水準みられます。

また、2005年度頃には、学校統廃合や自治体合併等の影響により制度を中止する学校が多くなり、その後も減少傾向となっていました。2016年度頃から新たに参入するケースもみられ現在は微増傾向にあります。

### ▽受け入れ校数と受け入れなし校数の推移

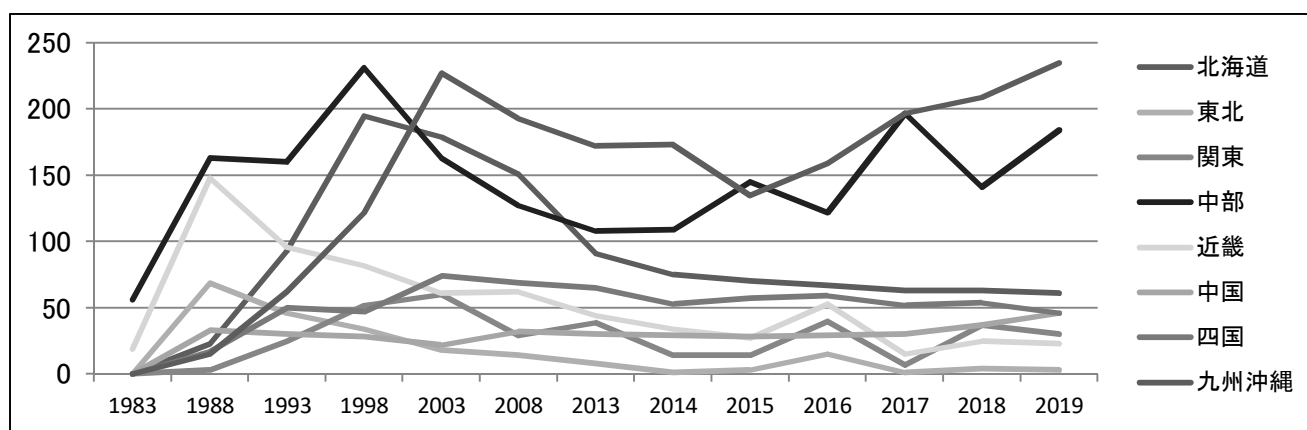
年度	受け入れ校	受け入れなし校	合計
1976	2	0	2
1977	2	0	2
1978	2	0	2
1979	2	0	2
1980	4	0	4
1981	3	1	4
1982	5	0	5
1983	9	0	9
1984	10	0	10
1985	16	2	18
1986	27	3	30
1987	44	4	48
1988	61	2	63
1989	65	5	70
1990	70	5	75
1991	69	11	80
1992	87	10	97
1993	89	16	105
1994	104	13	117
1995	103	19	122
1996	109	25	134
1997	122	23	145
1998	131	32	163
1999	147	27	174
2000	157	32	189
2001	153	40	193
2002	151	42	193
2003	149	47	196
2004	158	37	195
2005	140	40	180
2006	147	29	176
2007	143	32	175
2008	138	37	175
2009	120	31	151
2010	113	34	147
2011	106	41	147
2012	100	46	146
2013	100	31	131
2014	94	23	117
2015	84	20	104
2016	108	35	143
2017	108	33	141
2018	109	29	138
2019	113	31	144



## 44年間の参加者数の推移(受け入れ地域別・居住形態別)

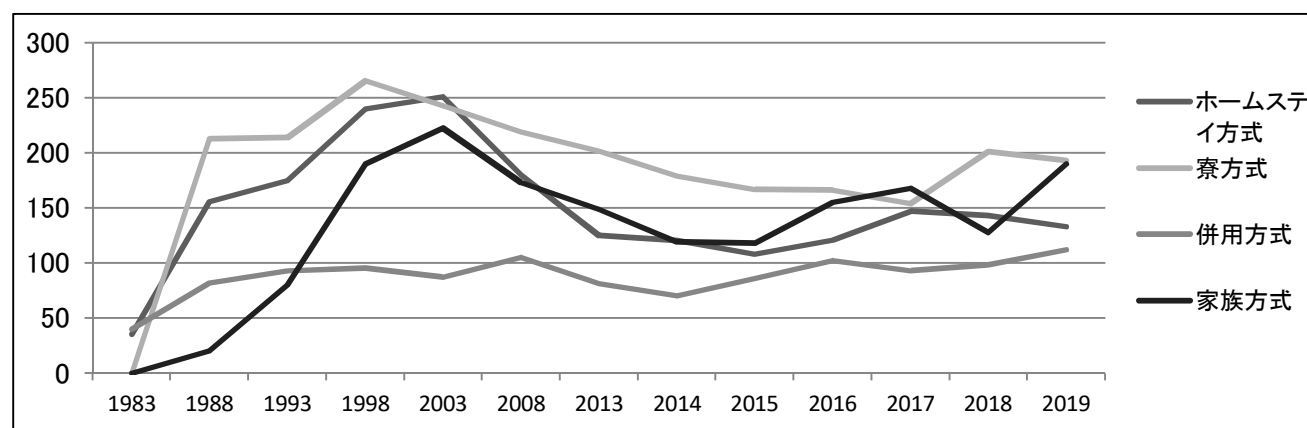
### ▽受け入れ地域別に見た参加者数の推移

	1983	1988	1993	1998	2003	2008	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
北海道	0	23	93	195	179	151	91	75	70	67	63	63	61
東北	0	69	46	34	18	14	8	1	3	15	1	4	3
関東	0	3	25	52	60	29	39	14	14	40	7	37	30
中部	56	163	160	231	163	127	108	109	145	122	197	141	184
近畿	19	148	96	82	61	62	44	34	27	53	15	25	23
中国	0	33	30	28	22	32	30	29	28	29	30	37	46
四国	0	17	50	47	74	69	65	53	57	59	52	54	46
九州沖縄	0	15	62	122	227	193	172	173	135	159	197	209	235
合計	75	471	562	791	804	677	557	488	479	544	562	570	628



### ▽居住形態別に見た参加者数の推移

	1983	1988	1993	1998	2003	2008	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
ホームステイ方式	35	156	175	240	251	180	125	120	108	121	147	143	133
寮方式	0	213	214	266	243	219	202	179	167	166	154	201	193
併用方式	40	82	93	95	87	105	81	70	86	102	93	98	112
家族方式	0	20	80	190	223	173	149	119	118	155	168	128	190
合計	75	471	562	791	804	677	557	488	479	544	562	570	628



2019年度版 全国の山村留学実態調査報告書

2020年5月

編集発行：NPO法人全国山村留学協会

〒180-0006

東京都武蔵野市中町1-6-7-5F tel:0422-56-0595 fax:0422-56-0351

info@sanryukyo.net

<http://www.sanryukyo.net>